

採卵鶏における木炭及び木酢液の添加試験

環境に優しい資材として注目されている木酢液ですが、畜産分野におけるアプローチも様々に行われ、その効果についても多くの報告がなされています。

木酢液の従来利用法としては消臭目的に排せつ物に直接散布するというものでしたが、最近の活用法としては分留精製したものを家畜に直接給与して生産性や品質の向上を図るというものがあります。このようなことを受け、畜産試験場では県林業センターとの共同研究として木酢液の活用領域の拡大を共通のテーマに、採卵鶏における飼料への添加試験に取り組んでいます。木酢液は林業センター利用のものと同一ロットとし、県内産の品質の安定したものを使用します。

よく言われることですが、単に木酢液といってもその精製状態により品質にかなりのばらつきがあるようです。粗悪なものは生物にとっては有害なものとなる場合も考えられますので、実際に利用する前に品質を的確に判定することは重要であると思われます。色や透明度、pH 等が品質の指標となるとの報告もあり、これらを総合的に見て慎重に判断する必要があります。

供試鶏には、最も一般的な赤玉系のコマーシャルを用い、卵の生産性や品質に与える影響や悪臭の低減効果について調査します。また木酢液の添加濃度については1%程度を基準にいくつかの設定で検討します。さらに木炭も加えた複合給与についても併せて検討していく予定です。試験期間については、初年度の添加飼料の給与期間を6週間に設定して行っていますが、1年あるいは2年といった長期給与による試験成績が報告されていることから、短期の設定で効果についての見極めが十分ではないことも予想されますので、延長する方向で設定を見直していくことも考えられます。

いずれにしても本試験を通して、木酢液の畜産分野における新しい活用に関する基礎データの積み上げを行い、何らかの指針と根拠を得ることを目標に実施していく予定です。

